



株式会社ダイドーリミテッド

2024年3月期 決算説明会

2024年5月24日

証券コード：3205

当社グループは、1879年に綿織物製造事業を創業して以来、
「お客様第一」「品質本位」を経営理念に掲げ、
毛織物や衣料製品の製造販売、工場跡地を活用した不動産賃貸事業に至るまで、
時流に応じて事業領域やビジネスモデルを進化させながら、
顧客の皆様に高品質な製品をお届けしてまいりました。

また、日本のみならず、中国そして欧米におけるグローバルなビジネス展開を戦略の基本と位置付け、
挑戦を続けております。

グローバル展開するSPA企業として、
2029年の創業150周年、さらにはその先の50年も顧客の皆様にご愛顧いただけるよう、
グループ一丸となって企業価値の向上に取り組んでまいります。

2024年3月期 実績

- コロナ禍から **3期連続の増収と赤字削減**も営業損失・経常損失を計上
- 国内小売部門は経済正常化やインバウンド需要の増加で増収増益
- イタリア製造部門は前期の受注前倒しの反動により減収減益
- 中国製造部門の事業構造改善を実施し特別損失を計上
- 不動産賃貸事業は本社ビル売却に伴う保有資産の組替が完了するも当期は減益

2025年3月期 業績予想

- ブルックスブラザーズは引き続き成長が継続。ニューヨーカーはサプライチェーン改革を実施
→衣料事業の黒字化へ
- ダイナシティの新館オープンと保有資産の組替完了で大幅な増収増益
- これまでの改革の成果が実を結び、**営業黒字化達成へ**

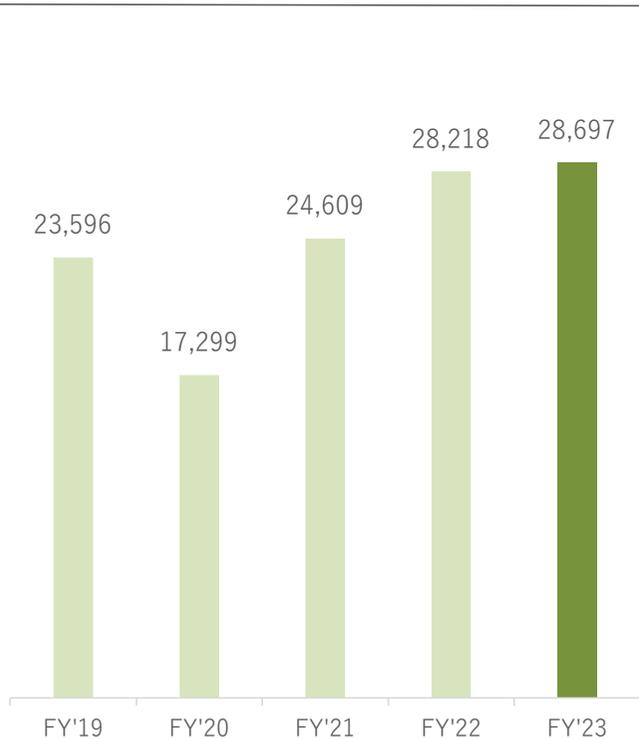
① 2024年3月期 実績

② 2025年3月期 業績予想

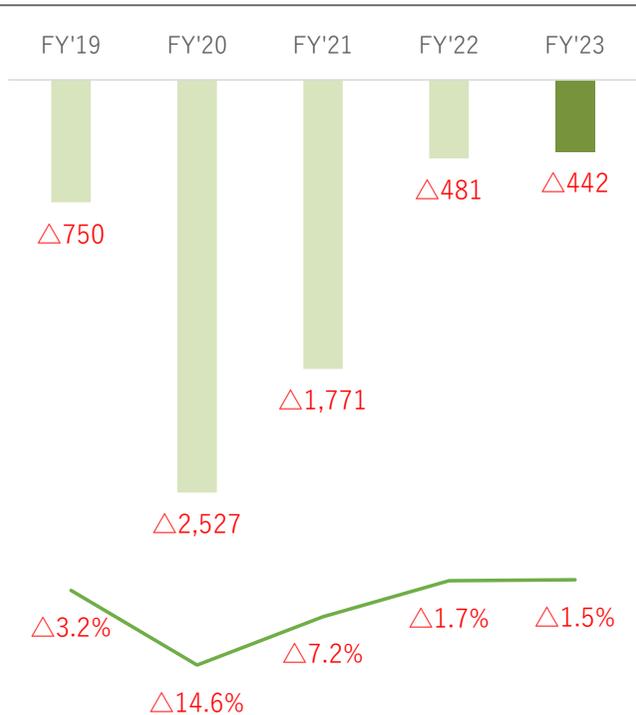
FY'20のコロナ禍から3期連続の増収および損失減少

国内小売部門は好調もイタリア製造部門の取引先在庫調整の影響もあり当期の損失減少は限定的

売上高推移



営業利益・利益率推移



連結業績概要

	FY'22	FY'23	前期比
売上高	28,218	28,697	+479
売上総利益	14,317	14,919	+602
利益率	50.7%	52.0%	+1.3%
営業利益	△481	△442	+39
利益率	△1.7%	△1.5%	+0.2%
経常利益	△378	△336	+42
利益率	△1.3%	△1.2%	+0.2%
当期純利益	6,757	291	△6,466
利益率	23.9%	1.0%	△22.9%

衣料事業は小売部門の需要回復をうけてセグメント利益が前期比+153百万円

不動産賃貸事業は本社ビル売却に伴う保有資産組替の影響でセグメント利益が前期比△98百万円

セグメント別 売上高および利益

売上高	FY'22	FY'23	前期比
衣料事業	25,363	25,741	+378
不動産賃貸事業	2,854	2,956	+102
合計	28,218	28,697	+479

セグメント利益	FY'22	FY'23	前期比
衣料事業	△189	△36	+153
不動産賃貸事業	568	470	△98
調整額	△860	△876	△16
合計	△481	△442	+39

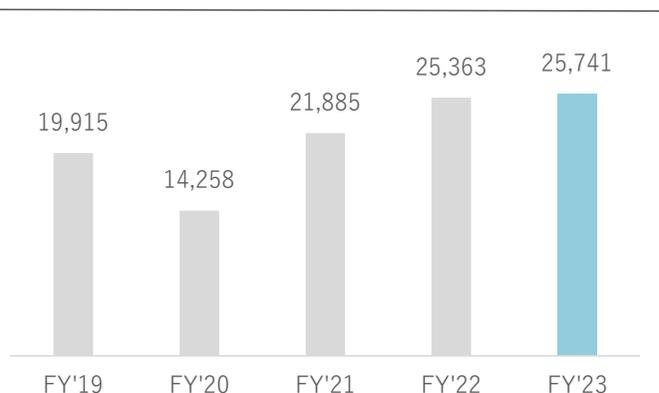
当社の報告セグメント

衣料事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者向けの衣料用繊維素材の製造販売 ● 消費者向けの紳士・婦人衣料製品等の製造販売 <p>(主なブランド) ニューヨーカー、ブルックス ブラザーズ、ポンテトルト</p>
不動産賃貸事業	<ul style="list-style-type: none"> ● ショッピングセンター店舗・オフィス用ビル等の賃貸等 <p>(主な施設) ダイナシティ</p>

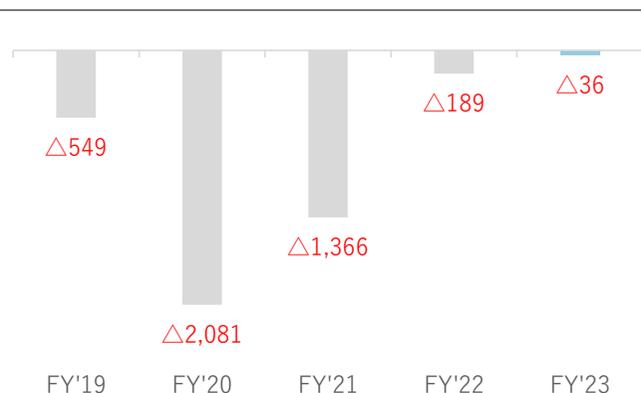
※ 調整額は各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用が含まれております。全社収益は主にグループ子会社からの経営管理指導料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

人流の回復やインバウンド需要の増加により売上高が増加
前期不採算店舗撤退の効果や値引き販売の抑制によって利益率が改善

売上高 5年推移



セグメント利益 5年推移



主要なブランド



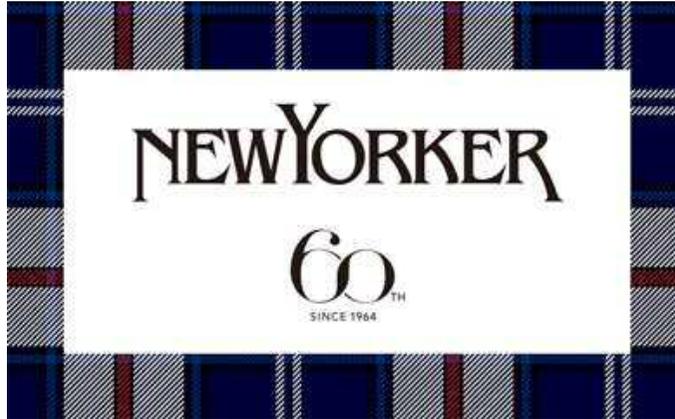
増減要因

- ブルックス ブラザーズはアーカイブコレクションやPEANUTSとのコラボレーションも好評で増収増益
- ニューヨークカーは前期の不採算店舗撤退により減収となるも、撤退による損失削減効果に加え、値引き販売の抑制や在庫管理の効率化によって増益
- イタリア製造部門のポンテトルトは不安定な国際情勢による受注前倒しの反動で当期は受注が大きく減少
- 中国において一部事業撤退および事業内容の変更を実施し、事業構造改善費用266百万円を特別損失に計上

ブルックス ブラザーズ×PEANUTS コラボ

ニューヨーカー ブランド60周年

「フルカイトンアワード2023」受賞



2024年1月11日、ニューヨーカーは60周年を迎えました。

これをに伴いニューヨーカーdiv.では、さまざまなアニバーサリー企画やイベント等がおこなわれています。

特設サイトでは、ニューヨーカーの歴史動画や限定商品を紹介しています。

■ ニューヨーカー60周年特設サイト

<https://www.ny-onlinestore.com/shop/pages/newyorker-60th.aspx>

トラディショナルなブルックス ブラザーズの洋服を身にまとったオリジナル仕様のスヌーピーをあしらったアイテムがラインナップ。

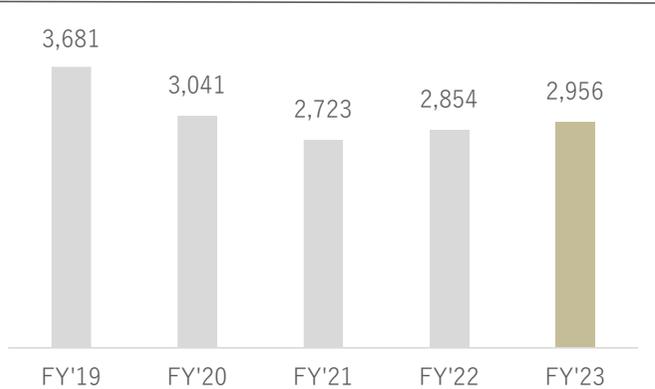
今季はネイビーブレザーを筆頭に、ポロカラーシャツやTシャツといった人気のベーシックアイテムが揃いました。

「フルカイトンアワード」は、フルカイトン社が提供する商品在庫分析システム「FULL KAITEN（フルカイトン）」を活用努力をしている個人や企業を称える表彰で、企業表彰では在庫分析部門と在庫配分部門の2部門が設けられています。

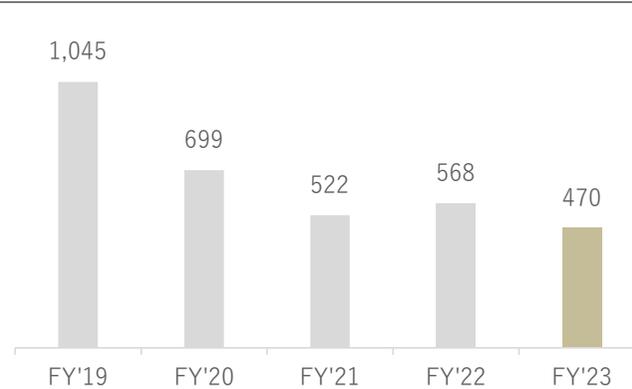
株式会社ダイドーフォワードは、DXプロジェクトの一環として2022年7月より本システムを導入。今回の受賞では、店舗の週次戦略にもとづいたPDCAの実行や、マークダウン運用時の「クオリティ分析」の活用などが評価されました。

商業施設ダイナシティの来館客数増加などによって増収も 保有資産の組替による収益減少と費用増加でセグメント利益は減少

売上高 5年推移



セグメント利益 5年推移



ダイナシティの内観

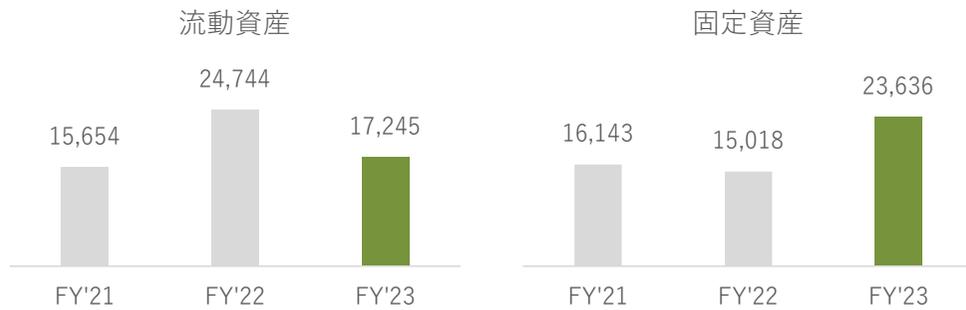


増減要因

- 商業施設ダイナシティは人流の回復や減価償却費負担の減少もあり増収増益
2024年4月に新館がオープンし、隣接する旧日立館区画の再開発も実施中
- オフィス用不動産は前期末に保有資産の組替を目的として老朽化していた本社ビルを売却
買換資産として2つの賃貸用不動産の取得を完了し、当期の途中から収益が発生するも減益

不動産賃貸事業における保有資産の組替によって前期末比で現預金が減少、有形固定資産が増加

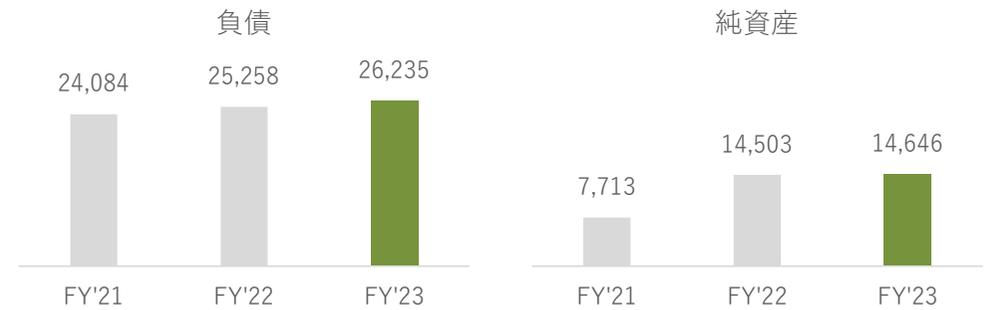
資産の部



前期末比差異

項目	差異	注
流動資産	△7,499	
現金および預金	△8,176	※不動産の取得・借入金の増加など
売上債権	△563	
棚卸資産	+413	
その他（上記以外）	+827	
固定資産	+8,618	
有形固定資産	+10,017	※不動産取得・ダイナシティ新館建設など
投資有価証券	△1,597	※外国債券・上場株式の売却など
その他（上記以外）	+198	

負債・純資産の部



前期末比差異

項目	差異	注
負債	+977	
仕入債務	△907	
借入金（長期含む）	+2,936	
その他（上記以外）	△1,052	※預り金・繰延税金負債の減少など
純資産	+144	
自己株式の減少	+917	※自己株式の取得および消却など
資本剰余金の減少	△2,066	※自己株の消却など
利益剰余金の増加	+227	
その他（上記以外）	+1,069	※其他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定など

投資CFに保有資産の組替による取得支出が発生、これにともなう税金支出が営業CFを押し下げ



営業CF		△1,876
税引前当期純利益	△463	
減価償却費	+1,059	
投資有価証券売却損益	△236	
売上債権の減少	+712	
棚卸資産の増加	△146	
仕入債務の減少	△1,130	
法人税等の支払額	△428	※本社ビル売却益に係る税金含む
事業構造改善費用の支払額	△291	
その他（上記以外）	△953	※買換資産取得に係る仮払消費税含む

投資CF		△7,899
有形固定資産の取得支出	△10,568	
投資有価証券の売却収入	+2,847	※外国債券・上場株式の売却など
その他（上記以外）	△178	

財務CF		+1,488
借入金増減（長期含む）	+2,890	
自己株式の取得	△1,176	
配当金の支払額	△64	
その他（上記以外）	△162	

期首 現預金残高	13,553
期中増減	△8,176 ※現金の換算差額含む
期末 現預金残高	5,377

No.	指標名称	単位	計算式	FY'21	FY'22	FY'23
1	流動比率	(%)	流動資産 / 流動負債	104.36%	138.77%	126.08%
2	自己資本比率	(%)	自己資本 / 総資本	21.62%	34.41%	33.71%
3	総資本利益率 (ROA)	(%)	当期純利益 / ((当期総資本+前期総資本) / 2)	△10.55%	18.89%	0.72%
4	自己資本利益率 (ROE)	(%)	当期純利益 / ((当期自己資本+前期末自己資本) / 2)	△43.25%	65.75%	2.13%
5	期末株価	(円)	東京証券取引所の終値	140	272	611
6	1株当たり当期純利益	(円)	当期純利益 / 期中平均株式数	△108.37	207.46	10.22
7	株価収益率 (PER)	(倍)	期末株価 / 1株当たり当期純利益	△1.29	1.31	59.76
8	1株当たり純資産額	(円)	自己資本 / 期末株式数	209.89	442.30	511.82
9	株価純資産倍率 (PBR)	(倍)	期末株価 / 1株当たり純資産額	0.67	0.61	1.19

① 2024年3月期 実績

② 2025年3月期 業績予想

2027年3月期の営業利益15億円、ROE 8%達成に向けて始動

2027年3月期を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「革新と進化」を策定いたしました。
計画の詳細につきましては、当社ホームページ (<https://www.daidoh-limited.com/>) に掲載しておりますので、
ご参照くださいますようお願い申し上げます。

2025年3月期

営業利益 1 億円

2027年3月期

営業利益15億円

2026年3月期

営業利益3.6億円

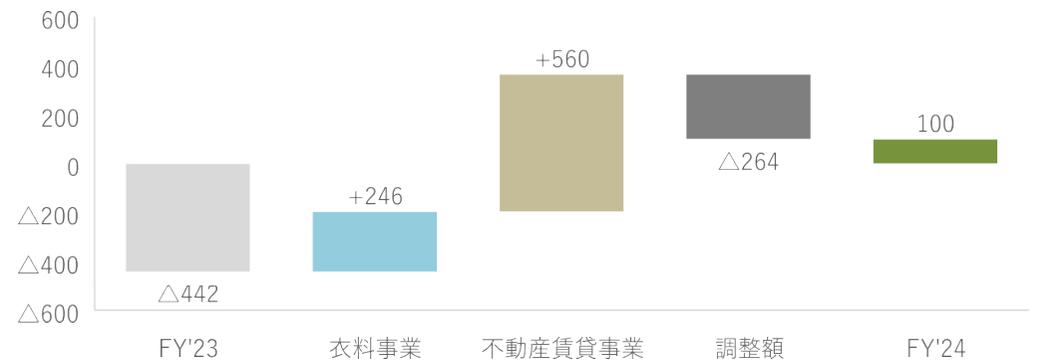
衣料事業を黒字化、そして売上高303億円・営業利益1億円へ

連結業績予想

売上高	FY'23 (実績)	FY'24 (予想)	前期比
衣料事業	25,741	26,960	+1,219
不動産賃貸事業	2,956	3,340	+384
合計	28,697	30,300	+1,603

セグメント利益	FY'23 (実績)	FY'24 (予想)	前期比
衣料事業	△36	210	+246
不動産賃貸事業	470	1,030	+560
調整額	△876	△1,140	△264
合計	△442	100	+542

セグメント別 営業利益 増減要因



増減要因

【衣料事業】

- 小売部門は、引き続きブルックス ブラザーズが成長を牽引。ニューヨーカーはサプライチェーン改革を実施
- 中国製造部門は、2024年3月期の事業構造改善によって損失が減少
- イタリア製造部門は、当期に続き取引先在庫調整により停滞の見込み

【不動産賃貸事業】

- ダイナシティの新館と2024年3月期に取得した賃貸用不動産によって大幅な増収増益

4月19日に「ダイナシティ ウェスト アネックス」がユニクロとGUを迎えて新たにオープン！！

ユニクロとGUがテナントに！！

ダイナシティの前身である当社小田原工場の建屋をイメージした外観

Dynacity
WEST
ANNEX



2024年4月19日に「Dynacity WEST ANNEX」がオープン。ダイナシティでこれから起こる“進化”と“変化”、そしてお客様との未来（これから）。様々な想いを、小田原市出身であるTAKEUCHI ATSUSHI氏によるアートで表現しました。





【免責事項】

- 本資料では、当社および関係会社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見込みです。また、経済動向や個人消費、市場需要、税制や諸制度などに関わるリスクや不確実性を含んでいます。したがって、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性のあることをご承知おきください。
- 本資料には監査を受けていない参考数値が含まれており、金額は百万円未満切捨て、それ以外を四捨五入で表示しております。